

7 定点把握対象疾患の病原体検出情報

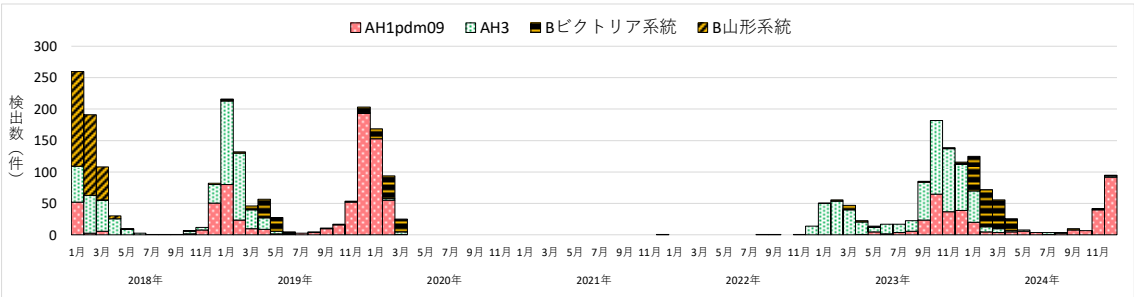
1) インフルエンザ

477 検体が採取された。検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 亜型が 195 件、AH3 亜型が 74 件、B 型が 184 件であった。B 型についてはすべてビクトリア系統であった(表Ⅱ-1-1)。

2023 年-2024 年シーズンは、シーズン開始当初は AH1pdm09 亜型及び AH3 亜型が混在していたが、1 月以降 B 型(ビクトリア系統)の検出数が増加した。2024 年-2025 年シーズンは、シーズン開始当初の 9 月から 12 月までは AH1pdm09 亜型が検出数の大部分を占めていた(図Ⅱ-29-1)。

表Ⅱ-1-1 インフルエンザウイルスの検出状況 (2024 年)

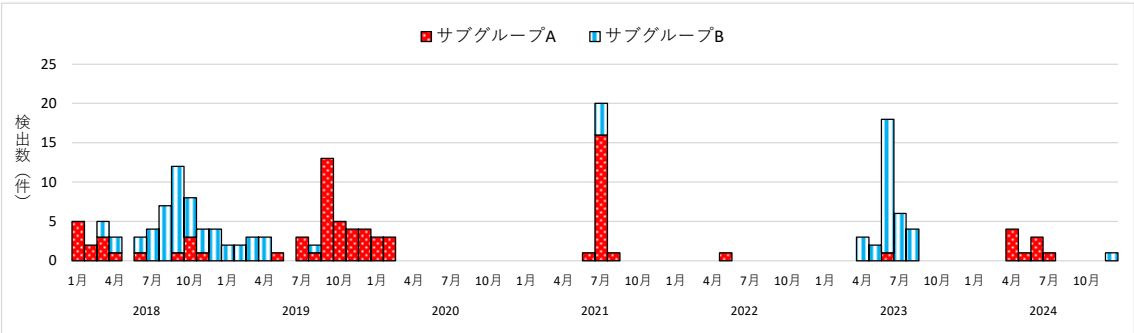
臨床診断名	採取月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	その他のウイルス
インフルエンザ	検体数	130	75	59	28	9	5	4	5	11	10	43	98	477	新型コロナウイルス(14)、RS(1)、ヒトメタニューモ(2)、パラインフルエンザ 3(1)、パラインフルエンザ 4(1)、コロナ NL63(1)、エンテロ nt(1)、ライノ(1)
	インフルエンザ AH1pdm09	20	5	4	5	6	4	1	3	8	7	40	92	195	
	インフルエンザ AH3	50	8	6	2	2		3	1				2	74	
	インフルエンザ B(ビクトリア)	55	59	46	19					2		2	1	184	



図Ⅱ-29-1 インフルエンザウイルスの検出状況 (2018 年～2024 年)

2) RSウイルス感染症

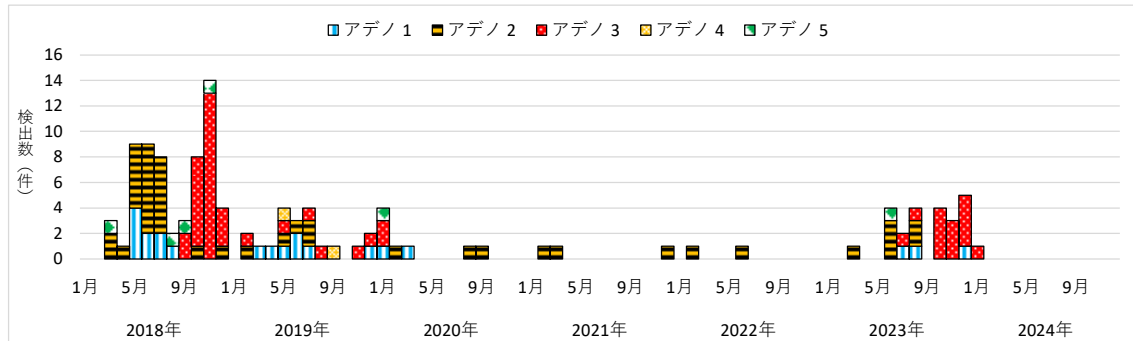
18 検体が採取された。検出された RS ウイルスはサブグループ A が 9 件、サブグループ B が 1 件であった(表Ⅱ-1-2、図Ⅱ-30-1)。



図Ⅱ-30-1 RSウイルスの検出状況 (2018 年～2024 年)

### 3) 咽頭結膜熱

4 検体が採取された。検出されたアデノウイルスはアデノウイルス 3 型及びアデノウイルス (型別不能) がそれぞれ 1 件であった(表Ⅱ-1-2、図Ⅱ-31-1)。



図Ⅱ-31-1 咽頭結膜熱からの主なアデノウイルスの検出状況 (2018 年～2024 年)

### 4) A 群溶血性レンサ球菌感染症

5 月に 1 検体が採取され、*Streptococcus pyogenes* が分離された。T 型別/*emm* 型は T1/*emm*1.0 (M1<sub>UK</sub> 株) であった。

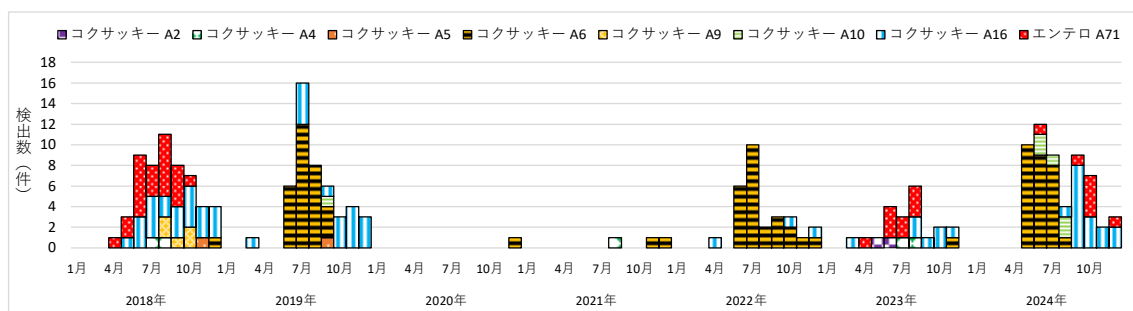
### 5) 感染性胃腸炎

51 検体が採取された。検出された胃腸炎起因ウイルスはノロウイルスが 17 件、サポウイルスが 6 件、アストロウイルスが 3 件、アデノウイルス 41 型が 2 件、A 群ロタウイルスが 1 件であり、4 検体でノロウイルスとサポウイルスが重複して検出された。ノロウイルスの遺伝子群はすべて GⅡ であった(表Ⅱ-1-2)。

### 6) 手足口病

72 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A 群 6 型が 28 件、コクサッキーウイルス A 群 16 型が 16 件、エンテロウイルス A71 型が 7 件、コクサッキーウイルス A 群 10 型が 5 件であった(表Ⅱ-1-2)。

2024 年は手足口病の検体が多く搬入され、春から夏にかけてコクサッキーウイルス A 群 6 型が、秋から冬にかけてはコクサッキーウイルス A 群 16 型が多く検出された(図Ⅱ-32-1)。



図Ⅱ-32-1 手足口病からの主なエンテロウイルスの検出状況 (2018 年～2024 年)

## 7) 伝染性紅斑

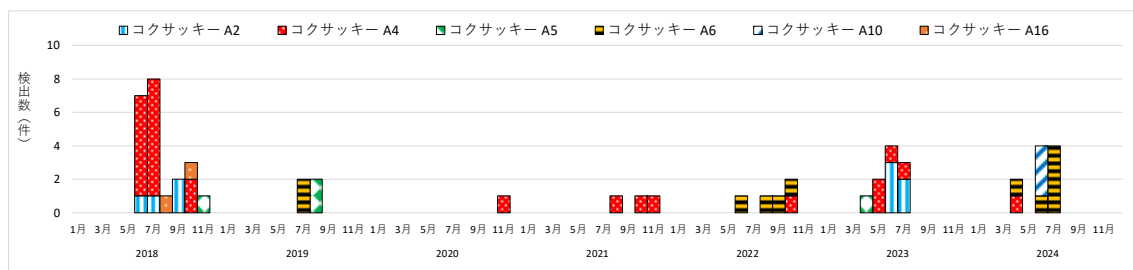
4 検体が採取され、ヒトパルボウイルス B19 が 2 件検出された(表Ⅱ-1-2)。

## 8) 突発性発しん

8 検体が採取され、ヒトヘルペスウイルス 6 が 4 件、ヒトヘルペスウイルス 7 が 2 件検出された(表Ⅱ-1-2)。

## 9) ヘルパンギーナ

20 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A 群 6 型が 6 件、コクサッキーウイルス A 群 10 型が 3 件、コクサッキーウイルス A 群 4 型が 1 件であった。また、コクサッキーウイルス B 群 5 型及びエコーウイルス 11 型もそれぞれ 1 件検出された(表Ⅱ-1-2、図Ⅱ-33-1)。



図Ⅱ-33-1 ヘルパンギーナからの主なエンテロウイルスの検出状況 (2018 年～2024 年)

## 10) 流行性角結膜炎

7 検体が採取された。検出されたアデノウイルスは、アデノウイルス 37 型が 3 件、アデノウイルス 3 型及びアデノウイルス 56 型がそれぞれ 1 件であった(表Ⅱ-1-2)。

## 11) 無菌性髄膜炎

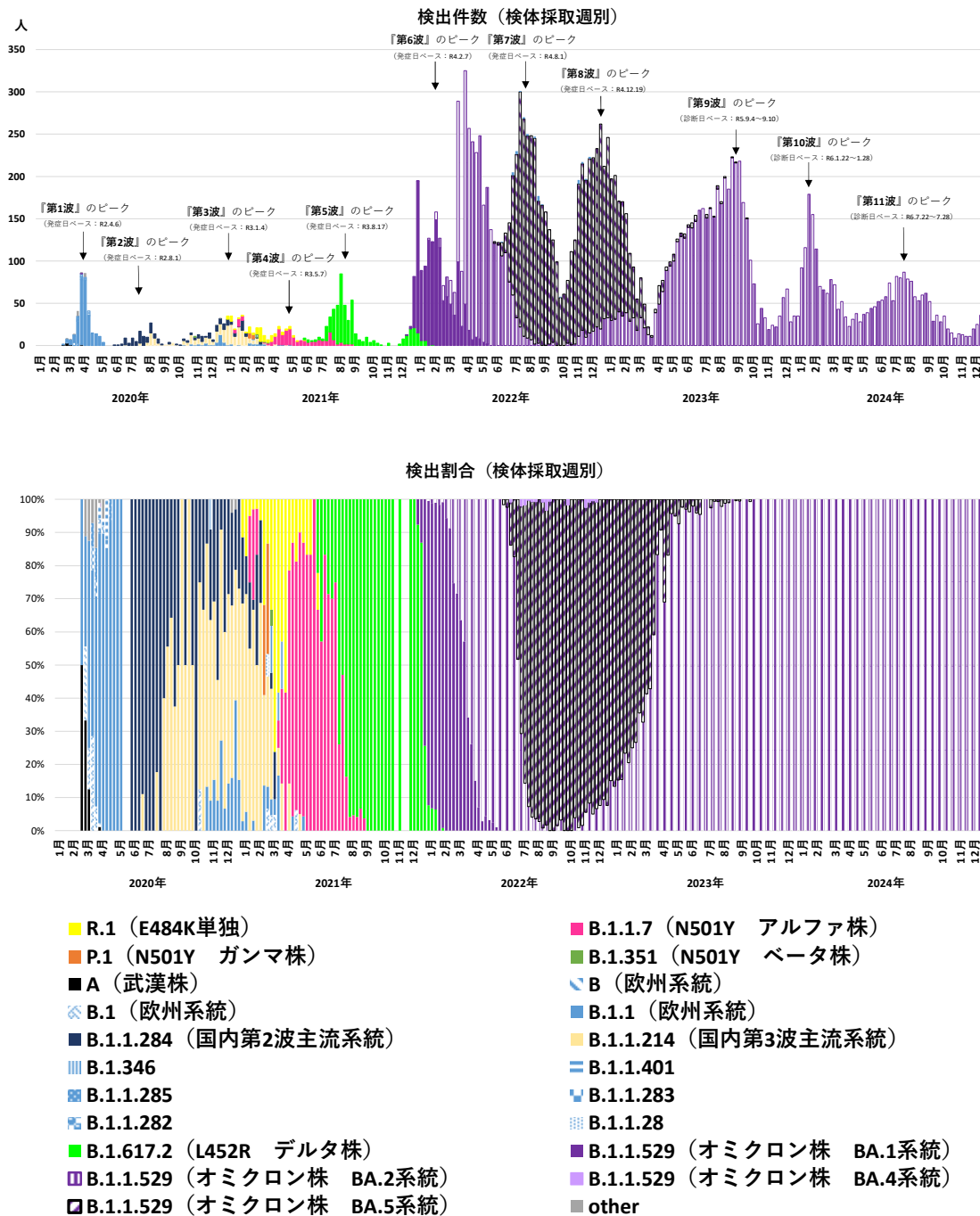
63 例 156 検体が採取され、32 例 74 検体から 76 件のウイルスが検出された。6 月を除き年間を通じて検体搬入があったが、ウイルスが検出されたのは 8 月～12 月に採取された検体であった。検出されたウイルスは、エコーウイルス 11 型が 13 例 34 件と最も多く、以下、エンテロウイルス A71 型が 5 例 10 件、コクサッキーウイルス B 群 3 型が 4 例 10 件、コクサッキーウイルス A 群 16 型が 3 例 4 件、エコーウイルス 18 型が 2 例 4 件、エンテロウイルス(型別不能)が 2 例 2 件、コクサッキーウイルス B 群 5 型が 1 例 3 件、コクサッキーウイルス B 群 2 型、エコーウイルス 30 型及びライノウイルスがそれぞれ 1 例 2 件、コクサッキーウイルス A 群 6 型、パレコウイルス及びインフルエンザウイルス AH1pdm09 亜型がそれぞれ 1 例 1 件であった。なお、エンテロウイルス A71 型とパレコウイルスが、ライノウイルスとコクサッキーウイルス A 群 6 型がそれぞれ同一検体から重複して検出された。また、エンテロウイルス(型別不能)については同一症例の異なる種類の検体からそれぞれエコーウイルス 11 型、エコーウイルス 18 型が検出された(表Ⅱ-1-2)。

表Ⅱ-1-2 五類定点把握対象疾患(インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症を除く)  
のウイルス検出状況 (2024 年)

臨床診断名	ウイルス	採取月 検体合計数												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
RSウイルス 感染症	検体数	16	6	19	15	24	35	36	32	64	58	21	14	340	パラインフルエンザ 3(2), ライノ(5)
	RS (A) RS (B)				4 4	2 1	4 3	3 1				3 1	2 1	18 9	
咽頭結膜熱	検体数	1					3							4	アデノ nt(1), コク サッキー A10(1)
	アデノ 3	1												1	
感染性胃腸炎	検体数	8	5	8	1	4	5	8	2	4	1	2	3	51	アデノ 2(2), アデノ 3(1), アデノ nt(1), コクサッキー A6(2), エコー 11(1), パレコ (4), ライノ(6)
	ノロ	5	2	6	1	1	1	1						17	
	サボ	2		2		1		1						6	
	アストロ ロタ (A)		1			1	1			1				3	
	アデノ 41					1					1			1	
手足口病	検体数	1				13	14	11	8	11	8	2	4	72	ライノ(3), EB(2), サ イトメガロ(1)
	コクサッキー A6					10	9	8	1					28	
	コクサッキー A10						2	1	2					5	
	コクサッキー A16								1	8	3	2		16	
	エンテロ A71						1			1	4		2	7	
伝染性紅斑	検体数							1	2		1			4	
	ヒトパルボ B19							1	1					2	
突発性発しん	検体数							3	2	2		1		8	
	ヒトヘルペス 6							1	2			1		4	
	ヒトヘルペス 7							1		1				2	
ヘルパンギーナ	検体数			1	3		7	6		2			1	20	コクサッキー B5(1), エコー 11(1), ライノ (2), アデノ 1(1)
	コクサッキー A4				1									1	
	コクサッキー A6				1		1	4						6	
	コクサッキー A10						3							3	
流行性 角結膜炎	検体数	1			2	1	2					1		7	
	アデノ 3	1												1	
	アデノ 37					1	1					1		3	
	アデノ 56				1									1	
無菌性髄膜炎	検体数	5	1	10	5	4		4	18	45	48	12	4	156	
	コクサッキー A6								1					1	
	コクサッキー A16								1		3			4	
	コクサッキー B2								2					2	
	コクサッキー B3									7	3			10	
	コクサッキー B5									3				3	
	エコー 11								5	4	21	3	1	34	
	エコー 18										3	1		4	
	エコー 30												2	2	
	エンテロ A71									5	3	2		10	
	エンテロ nt										2			2	
	パレコ									1				1	
	ライノ								2					2	
	インフルエンザ AH1pdm09												1	1	

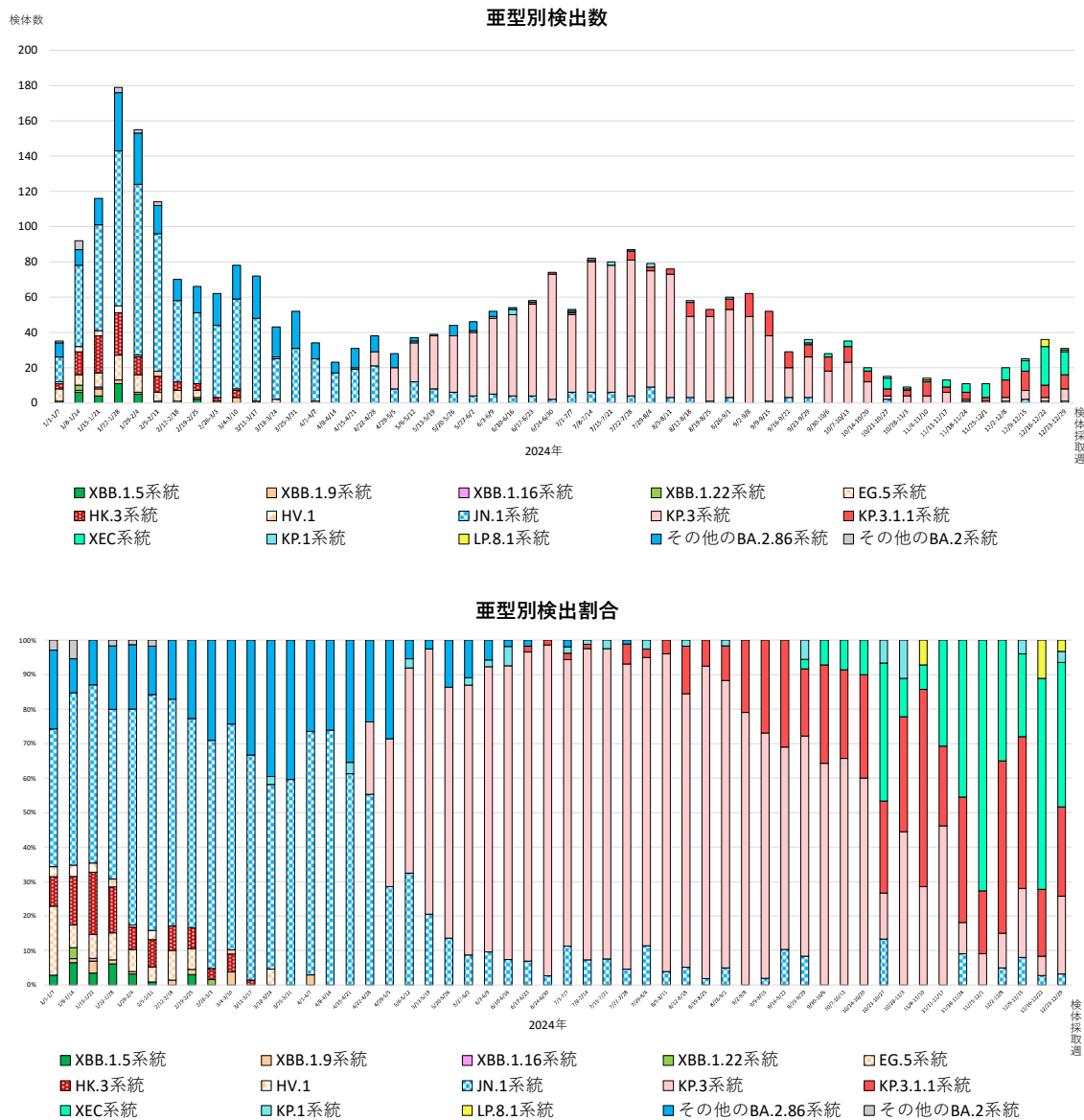
## 12) 新型コロナウイルス感染症

次世代シーケンサー(NGS)によるゲノム解析(県内医療機関(急性呼吸器感染症(病原体)サーベイランスの協力医療機関も含む)及び検査会社から提供された検体に基づく)によると、2023年4月以降オミクロン株のBA.2系統が流行の中心となり、2024年もBA.2系統による流行が継続していた(図Ⅱ-34-1)。



図Ⅱ-34-1 新型コロナウイルス ゲノム解析結果

2024年に検出されたBA.2系統を詳細に亜型で分類すると、1月から4月にかけてはJN.1系統が主流の亜型であったが、5月からはKP.3系統が増加し、10月下旬にかけて主流の亜型であった。10月下旬以降は、KP.3.1.1系統とXEC系統が検出の大部分を占めるようになった(図Ⅱ-34-2)。



図Ⅱ-34-2 新型コロナウイルス亜型別検出状況(2024年)